



策定方針を確認した懇談会(大館市保健センター)

「強み、弱みの分析を」

懇談会が方針確認

大館市の総合計画・戦略

大館市総合計画・総合戦略推進懇談会(会長、小笠原吉張・秋田職業能力開発短大教授)が11日、市保健センターで開かれ、後期基本計画と第2期戦略の策定方針やスケジュールを確認したほか、積極的に提言することを申し合わせた。

市内の商工団体やJA、ハローワーク、大学、金融機関、労働団体などの関係者12人で構成。市が提案する計画案と戦略案を検討し、専門的な視点から意見を反映させる狙いがある。計画・戦略は年度内の策定を目指している。

名村伸一副市長は「地方創生に向けた提言をいただき、地域の歴史や資源、特性を十分に生かした大館ならではの計画・戦略を策定したい」と小笠原会長は「これまでの成果や課題を踏まえ、さまざまな意見を出してほしい」とあいさつした。

策定方針は、社会・経済環境の変化への適切な対応や統計活用など4点。前期基本計画・第1期戦略では、子育て相談支援体制の整備や健康ポイント事業、サテライトオフィス(出先拠点)体験事業、歴史まちづくり、観光交流施設整備などに取り組み、課題として若者定着に向けた仕事

づくりや滞在型観光の推進などを挙げた。委員からは「行政として何を重視するか明確にしてほしい」「企業の人手不足が深刻。何が必要か各業界から聞き取りして施策に反映を」「成功しなかった事例を含めて、街の強みと弱みを分析すべきだ」などの意見が出た。

次回8月19日は骨子案について協議する。市の最上位計画にあたる総合計画は2016〜23年度の基本構想と前・後期各4年間の基本計画で構成、第1期戦略は19年度まで5年間を計画期間としている。